2020/1/29

# 柏の景気情報（ 令和2年12月分 ）

柏　商　工　会　議　所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011　千葉県柏市東上町７－１８
ＴＥＬ ： ０４－７１６２－３３０５
ＦＡＸ ： ０４－７１６２－３３２３
ＵＲＬ ： http://www.kashiwa-cci.or.jp
E-mail ： info@kashiwa-cci.or.jp

# 柏の景気情報（ 令和2年12月分 ）

○ 調 査 期 間　：　令和2年12月25日　～　令和3年1月7日

○ 調 査 対 象　：　柏市内130事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

| 調査産業 | 調査対象数 | 回答数 | 回収率 |
|---|---|---|---|
| 全 産 業 | 130 | 92 | 70.8% |
| 建　　設 | 32 | 18 | 56.3% |
| 製　　造 | 35 | 24 | 68.6% |
| 卸・小売 | 38 | 32 | 84.2% |
| サービス | 25 | 18 | 72.0% |

○ 調 査 方 法 と 調 査 表　：　下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

| 質問事項 | 回　答　欄 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 前年同月と比較した今月の水準 | | | 今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し | | |
| a.売上高（出荷高） | 1 増加 | 2 不変 | 3 減少 | 1 増加 | 2 不変 | 3 減少 |
| b.採算（経常利益ベース） | 1 好転 | 2 不変 | 3 悪化 | 1 好転 | 2 不変 | 3 悪化 |
| c.仕入単価 | 1 下落 | 2 不変 | 3 上昇 | 1 下落 | 2 不変 | 3 上昇 |
| d.従業員 | 1 不足 | 2 適正 | 3 過剰 | 1 不足 | 2 適正 | 3 過剰 |
| e.業況 | 1 好転 | 2 不変 | 3 悪化 | 1 好転 | 2 不変 | 3 悪化 |
| f.資金繰り | 1 好転 | 2 不変 | 3 悪化 | 1 好転 | 2 不変 | 3 悪化 |

質問B　業界内のトピック（記述式）

| |
|---|
| |

DI値 ＝ 1増加他の回答割合 － 3減少他の回答割合

※ DI値（景況判断指数）について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0（ゼロ）を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

| DI≧50 | 50＞DI≧25 | 25＞DI≧0 | 0＞DI≧▲25 | ▲25＞DI |
|---|---|---|---|---|
| 特に好調 | 好調 | まあまあ | 不振 | 極めて不振 |

【令和2年12月の業況についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲46．7（前月水準▲46．6)となり、マイナス幅が0．1ポイント拡大した。

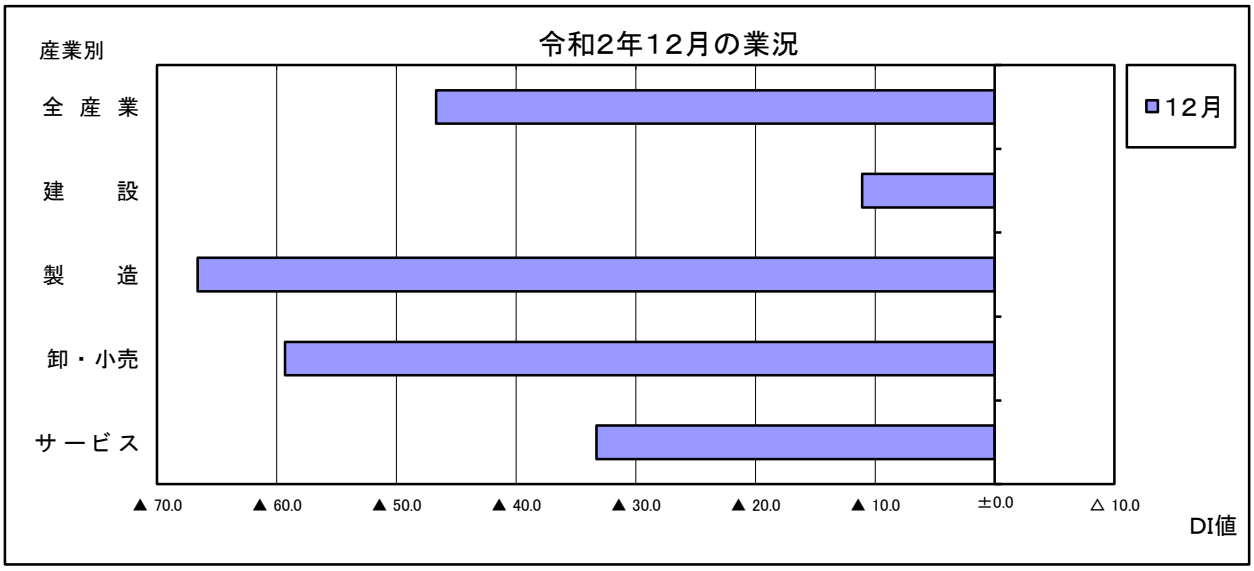
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲11．1(同▲21．0)、サービス業▲33．3(同▲38．8)、製造業▲66．6(同▲69．5)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲59．3(同▲50．0)である。

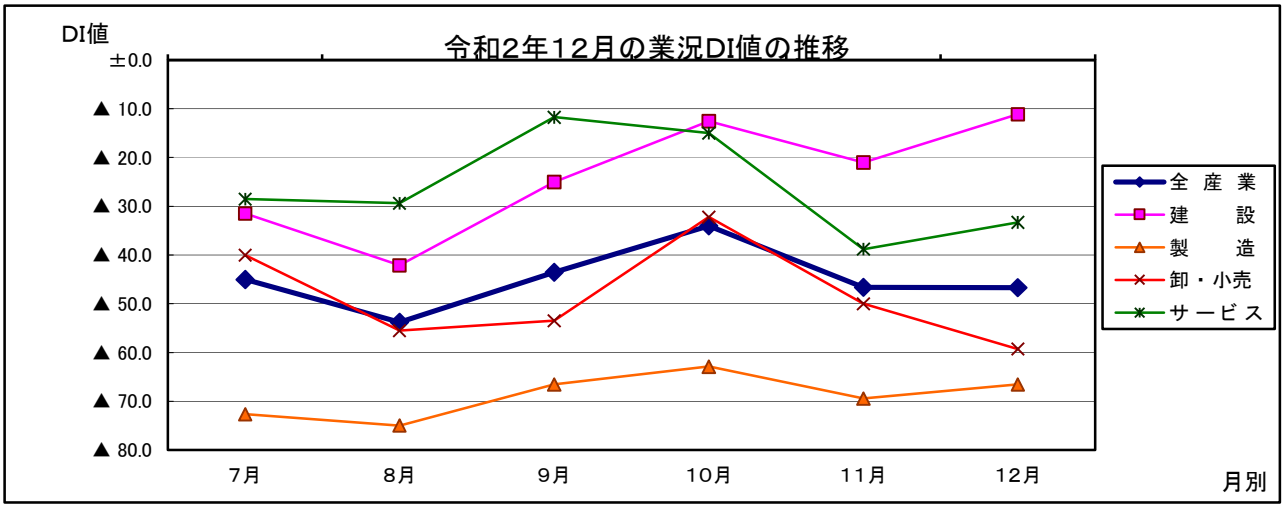
○ 向こう3ヶ月（1月から3月）の先行き見通しについては、全産業では、▲32．6（前月水準▲32．2）となり、マイナス幅が0．4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲29．1(同▲43．4)である。変らない見通しの業種は、サービス業▲22．2(同▲22．2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲56．2(同▲46．6)、建設業▲5．5(同▲5．2)である。

令和2年12月業況DI値（前年同月比）の推移

| | 令和2年 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 先行き見通し 1月～3月（12月～2月） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全産業 | ▲ 45.0 | ▲ 53.8 | ▲ 43.5 | ▲ 34.0 | ▲ 46.6 | ▲ 46.7 | ▲ 32.6（ ▲ 32.2 ） |
| 建設 | ▲ 31.5 | ▲ 42.1 | ▲ 25.0 | ▲ 12.5 | ▲ 21.0 | ▲ 11.1 | ▲ 5.5（ ▲ 5.2 ） |
| 製造 | ▲ 72.7 | ▲ 75.0 | ▲ 66.6 | ▲ 62.9 | ▲ 69.5 | ▲ 66.6 | ▲ 29.1（ ▲ 43.4 ） |
| 卸・小売 | ▲ 40.0 | ▲ 55.5 | ▲ 53.5 | ▲ 32.2 | ▲ 50.0 | ▲ 59.3 | ▲ 56.2（ ▲ 46.6 ） |
| サービス | ▲ 28.5 | ▲ 29.4 | ▲ 11.7 | ▲ 15.0 | ▲ 38.8 | ▲ 33.3 | ▲ 22.2（ ▲ 22.2 ） |



【令和2年12月の売上についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲42．3（前月水準▲46．6）となり、マイナス幅が4．3ポイント縮小した。

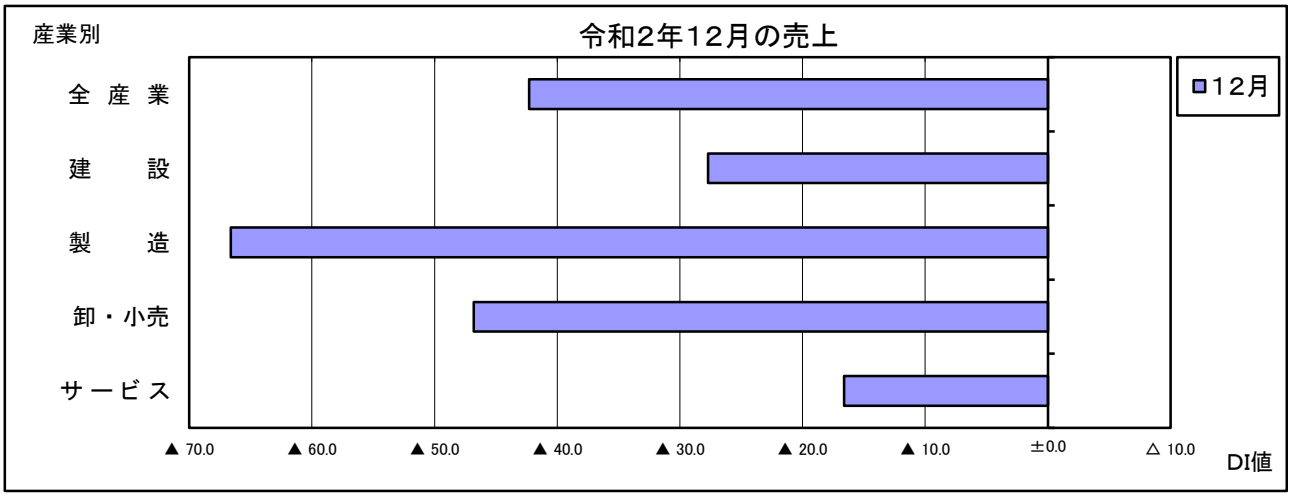
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲16．6(同▲38．8)、卸小売業▲46．8(同▲56．6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲27．7(同▲21．0)、製造業▲66．6(同▲60．8)である。

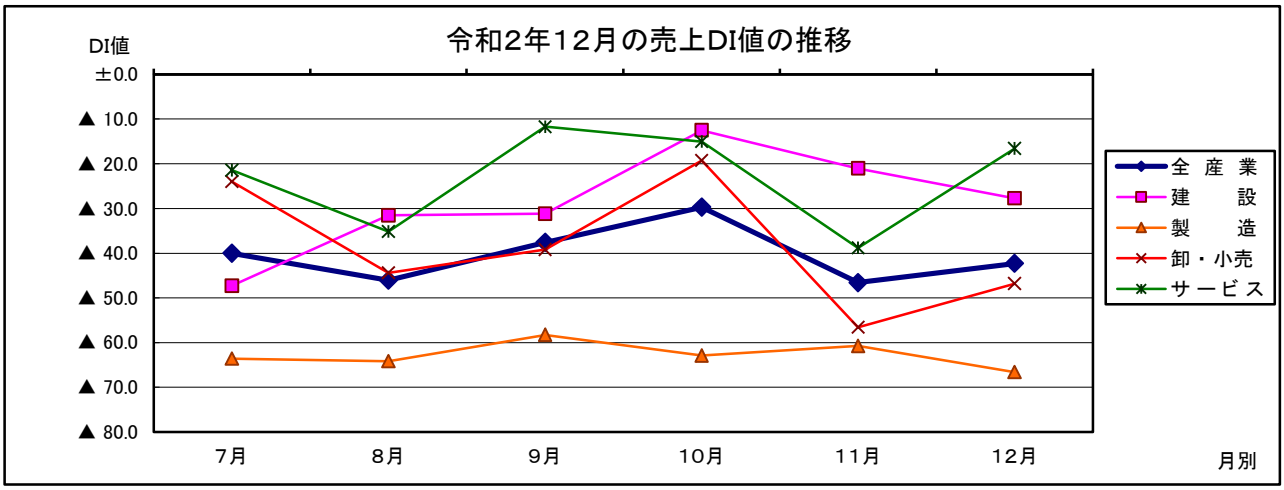
○ 向こう3ヶ月（1月から3月）の先行き見通しについては、全産業では、▲30．4（前月水準▲25．5）となり、マイナス幅が4．9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲20．8(同▲30．4)、サービス業▲5．5(同▲11．1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲16．6(同±0．0)、卸小売業▲59．3(同▲46．6)である。

令和2年12月の売上DI値（前年同月比）の推移

| | 令和2年<br>7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 先行き見通し<br>1月～3月（ 12月～2月 ） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全 産 業 | ▲ 40.0 | ▲ 46.1 | ▲ 37.6 | ▲ 29.7 | ▲ 46.6 | ▲ 42.3 | ▲ 30.4（ ▲ 25.5 ） |
| 建 設 | ▲ 47.3 | ▲ 31.5 | ▲ 31.2 | ▲ 12.5 | ▲ 21.0 | ▲ 27.7 | ▲ 16.6（ ±0.0 ） |
| 製 造 | ▲ 63.6 | ▲ 64.2 | ▲ 58.3 | ▲ 62.9 | ▲ 60.8 | ▲ 66.6 | ▲ 20.8（ ▲ 30.4 ） |
| 卸・小売 | ▲ 24.0 | ▲ 44.4 | ▲ 39.2 | ▲ 19.3 | ▲ 56.6 | ▲ 46.8 | ▲ 59.3（ ▲ 46.6 ） |
| サ ー ビ ス | ▲ 21.4 | ▲ 35.2 | ▲ 11.7 | ▲ 15.0 | ▲ 38.8 | ▲ 16.6 | ▲ 5.5（ ▲ 11.1 ） |



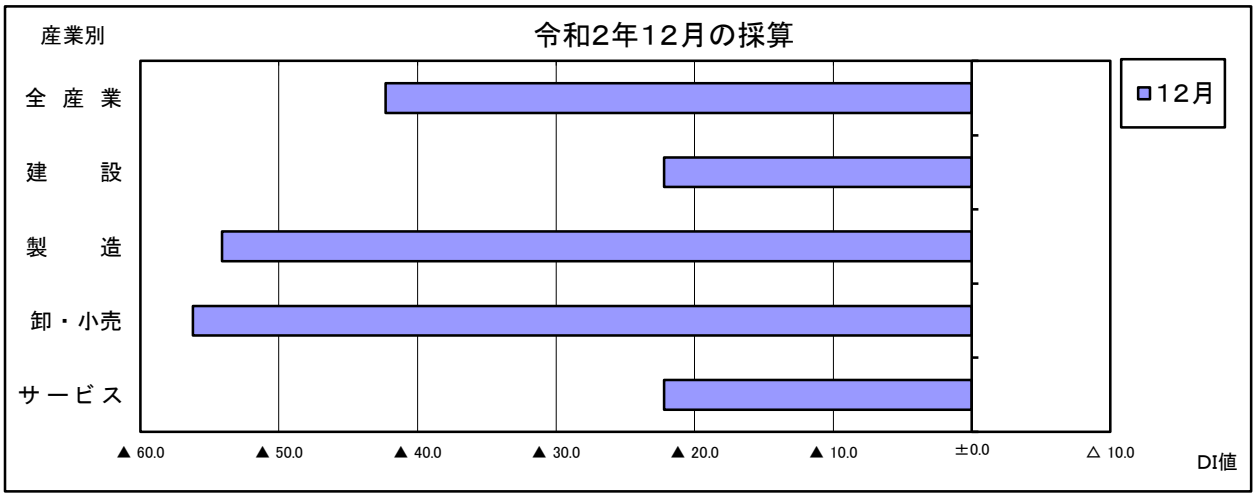
【令和2年12月の採算についての状況】

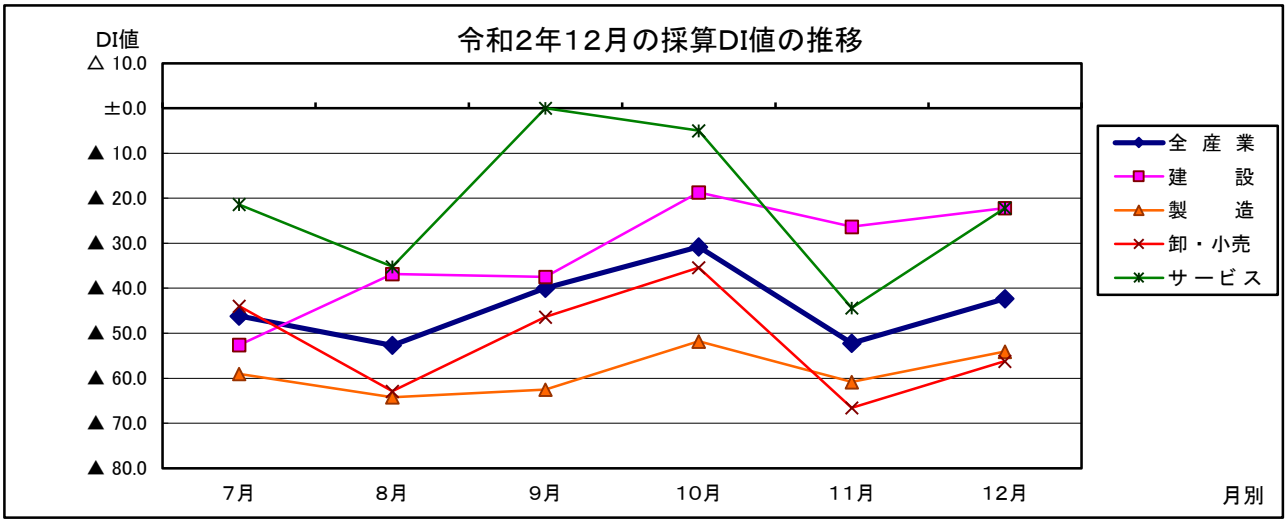
○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲42．3(前月水準▲52．2)となり、マイナス幅が9．9ポイント縮小した。
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲22．2(同▲44．4)、卸小売業▲56．2(同▲66．6)、製造業▲54．1(同▲60．8)、建設業▲22．2(同▲26．3)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲32．6(前月水準▲26．6)であり、マイナス幅が6．0ポイント拡大する見通しである。
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲5．5(同▲22．2)、製造業▲29．1(同▲30．4)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲16．6(同±0．0)、卸小売業▲59．3(同▲43．3)である。

令和2年12月の採算DI値(前年同月比)の推移

| | 令和2年7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 先行き見通し 1月～3月 ( 12月～2月 ) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全 産 業 | ▲ 46.2 | ▲ 52.7 | ▲ 40.0 | ▲ 30.8 | ▲ 52.2 | ▲ 42.3 | ▲ 32.6 ( ▲ 26.6 ) |
| 建 設 | ▲ 52.6 | ▲ 36.8 | ▲ 37.5 | ▲ 18.7 | ▲ 26.3 | ▲ 22.2 | ▲ 16.6 ( ±0.0 ) |
| 製 造 | ▲ 59.0 | ▲ 64.2 | ▲ 62.5 | ▲ 51.8 | ▲ 60.8 | ▲ 54.1 | ▲ 29.1 ( ▲ 30.4 ) |
| 卸・小売 | ▲ 44.0 | ▲ 62.9 | ▲ 46.4 | ▲ 35.4 | ▲ 66.6 | ▲ 56.2 | ▲ 59.3 ( ▲ 43.3 ) |
| サービス | ▲ 21.4 | ▲ 35.2 | ±0.0 | ▲ 5.0 | ▲ 44.4 | ▲ 22.2 | ▲ 5.5 ( ▲ 22.2 ) |



【令和2年12月の仕入単価についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14．1（前月水準▲22．2）となり、マイナス幅が8．1ポイント縮小した。

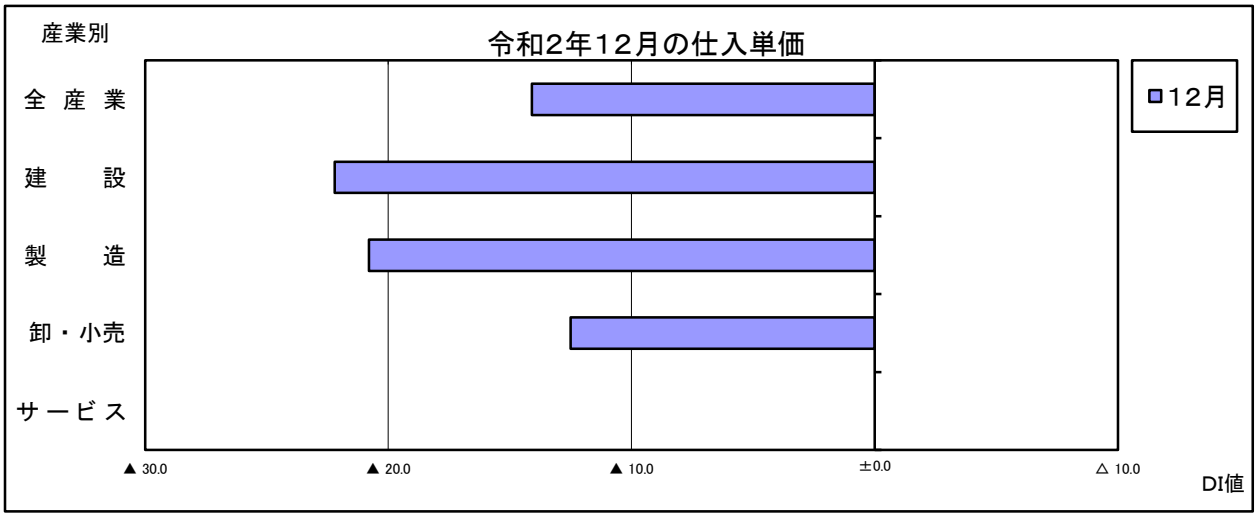
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲12．5(同▲33．3)、サービス業±0．0(同▲16．6)、製造業▲20．8(同▲21．7)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲22．2(同▲10．5)である。

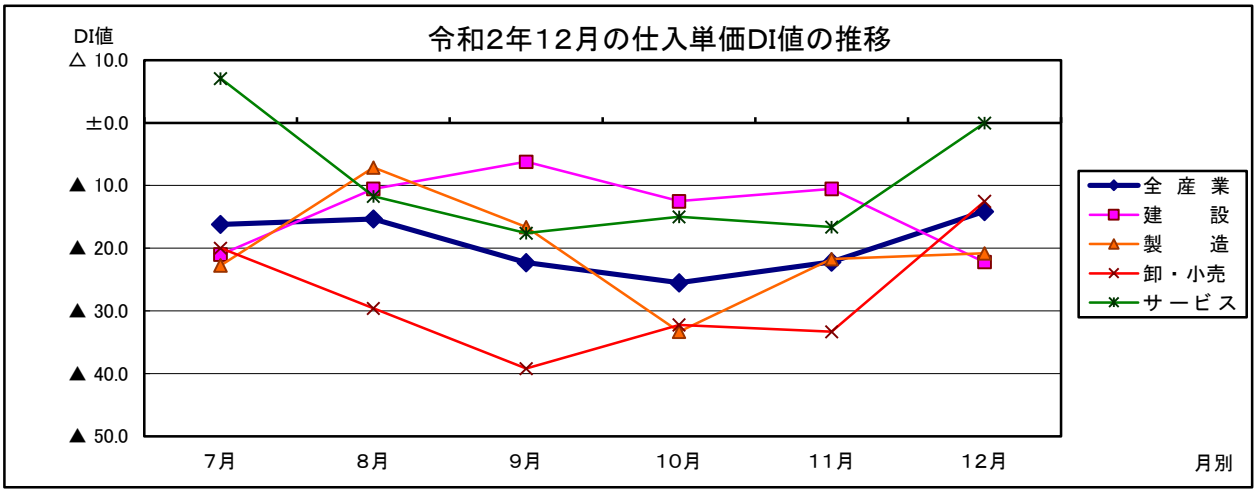
○ 向こう3ヶ月（1月から3月）の先行き見通しについては、全産業では、▲9．7（前月水準▲11．1）となり、マイナス幅が1．4ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△5．5(同▲5．5)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲18．7(同▲23．3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲8．3(同±0．0)、建設業▲11．1(同▲10．5)である。

令和2年12月の仕入単価DI値（前年同月比）の推移

| | 令和2年7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 先行き見通し 1月～3月（12月～2月） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全産業 | ▲ 16.2 | ▲ 15.3 | ▲ 22.3 | ▲ 25.5 | ▲ 22.2 | ▲ 14.1 | ▲ 9.7（ ▲ 11.1 ） |
| 建設 | ▲ 21.0 | ▲ 10.5 | ▲ 6.2 | ▲ 12.5 | ▲ 10.5 | ▲ 22.2 | ▲ 11.1（ ▲ 10.5 ） |
| 製造 | ▲ 22.7 | ▲ 7.1 | ▲ 16.6 | ▲ 33.3 | ▲ 21.7 | ▲ 20.8 | ▲ 8.3（ ±0.0 ） |
| 卸・小売 | ▲ 20.0 | ▲ 29.6 | ▲ 39.2 | ▲ 32.2 | ▲ 33.3 | ▲ 12.5 | ▲ 18.7（ ▲ 23.3 ） |
| サービス | △ 7.1 | ▲ 11.7 | ▲ 17.6 | ▲ 15.0 | ▲ 16.6 | ±0.0 | △ 5.5（ ▲ 5.5 ） |



【令和2年12月の従業員についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△9．7（前月水準△8．8）となり、プラス幅が0．9ポイント拡大した。

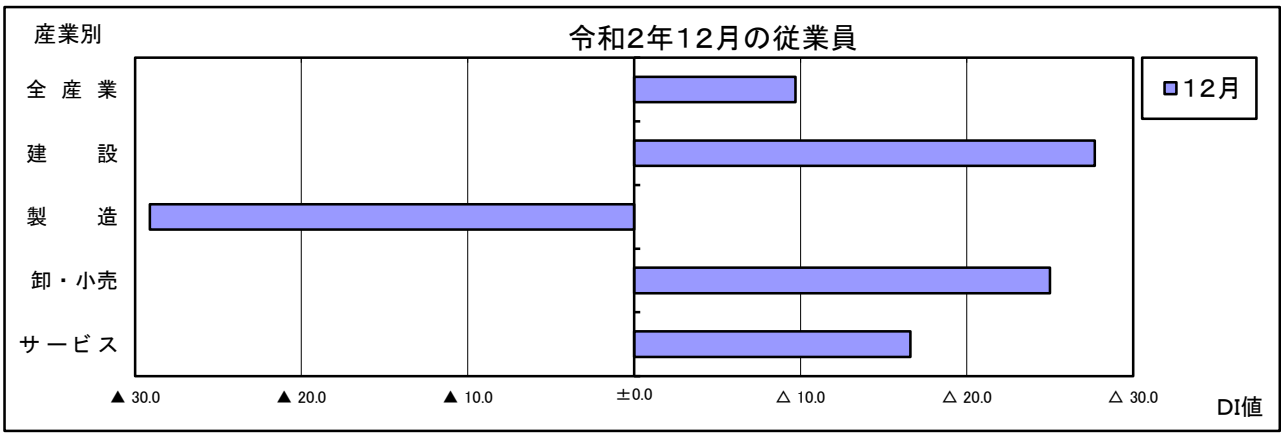
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、卸小売業△25．0(同△16．6)である。マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲29．1(同▲30．4)である。変らない業種は、サービス業△16．6(同△16．6)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業△27．7(同△36．8)である。

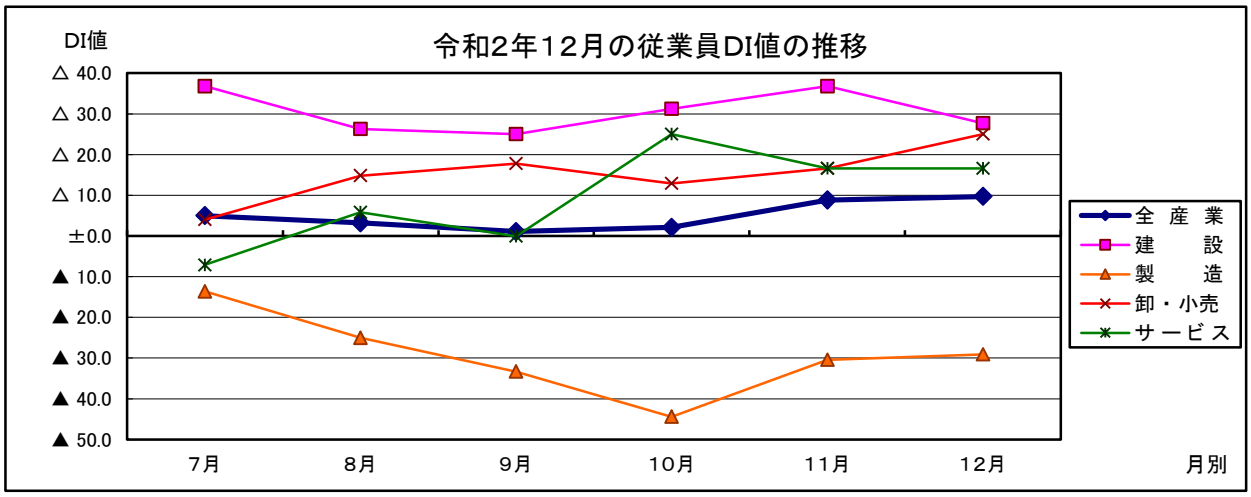
○ 向こう3ヶ月（1月から3月）の先行き見通しについては、全産業では、△4．3（前月水準△8．8）となり、プラス幅が4．5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△11．1(同△5．5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業△27．7(同△36．8)、卸小売業△18．7(同△20．0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲37．5(同▲26．0)である。

令和2年12月の従業員DI値（前年同月比）の推移

| | 令和2年 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 先行き見通し 1月～3月（12月～2月） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全 産 業 | △ 5.0 | △ 3.2 | △ 1.1 | △ 2.1 | △ 8.8 | △ 9.7 | △ 4.3（ △ 8.8） |
| 建 設 | △ 36.8 | △ 26.3 | △ 25.0 | △ 31.2 | △ 36.8 | △ 27.7 | △ 27.7（ △ 36.8） |
| 製 造 | ▲ 13.6 | ▲ 25.0 | ▲ 33.3 | ▲ 44.4 | ▲ 30.4 | ▲ 29.1 | ▲ 37.5（ ▲ 26.0） |
| 卸・小売 | △ 4.0 | △ 14.8 | △ 17.8 | △ 12.9 | △ 16.6 | △ 25.0 | △ 18.7（ △ 20.0） |
| サービス | ▲ 7.1 | △ 5.8 | ±0.0 | △ 25.0 | △ 16.6 | △ 16.6 | △ 11.1（ △ 5.5） |



【令和2年12月の資金繰りについての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16．3(前月水準▲23．3)となり、マイナス幅が7．0ポイント縮小した。

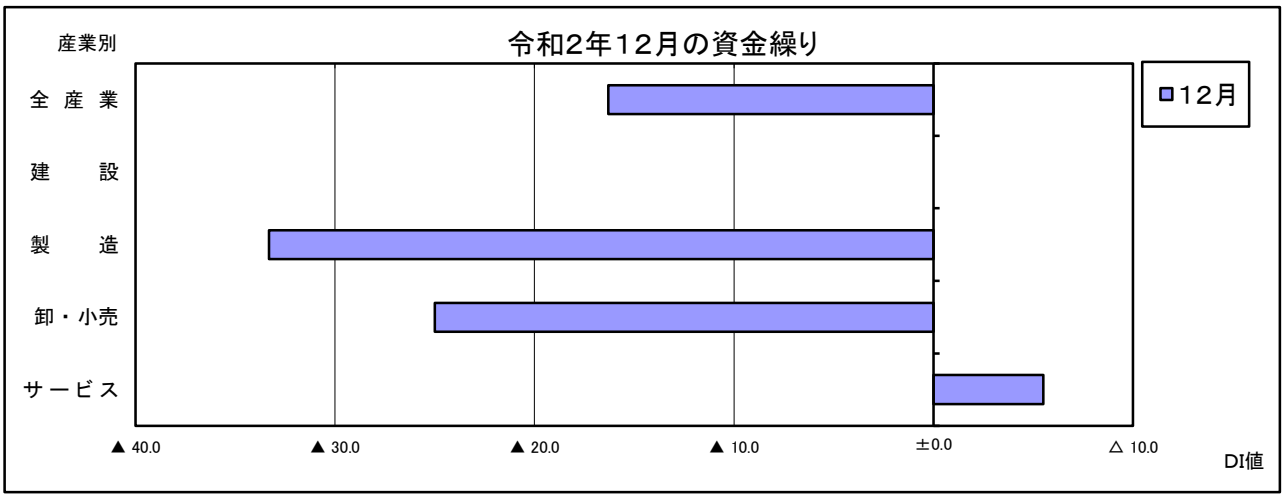
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△5．5(同▲16．6)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲33．3(同▲43．4)、卸小売業▲25．0(同▲26．6)である。変らない業種は、建設業±0．0(同±0．0)である。

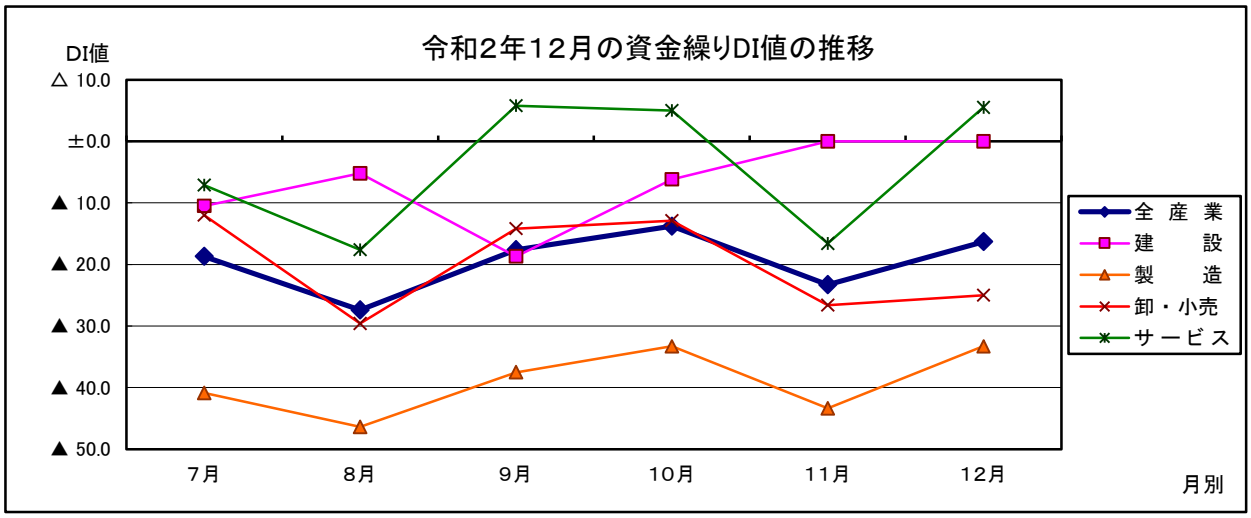
○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲23．9(前月水準▲25．5)となり、マイナス幅が1．6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲11．1(同▲16．6)、卸小売業▲28．1(同▲33．3)、製造業▲33．3(同▲34．7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲16．6(同▲10．5)である。

令和2年12月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

| | 令和2年7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 先行き見通し 1月～3月 ( 12月～2月 ) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全 産 業 | ▲ 18.7 | ▲ 27.4 | ▲ 17.6 | ▲ 13.8 | ▲ 23.3 | ▲ 16.3 | ▲ 23.9 ( ▲ 25.5 ) |
| 建 設 | ▲ 10.5 | ▲ 5.2 | ▲ 18.7 | ▲ 6.2 | ±0.0 | ±0.0 | ▲ 16.6 ( ▲ 10.5 ) |
| 製 造 | ▲ 40.9 | ▲ 46.4 | ▲ 37.5 | ▲ 33.3 | ▲ 43.4 | ▲ 33.3 | ▲ 33.3 ( ▲ 34.7 ) |
| 卸・小売 | ▲ 12.0 | ▲ 29.6 | ▲ 14.2 | ▲ 12.9 | ▲ 26.6 | ▲ 25.0 | ▲ 28.1 ( ▲ 33.3 ) |
| サービス | ▲ 7.1 | ▲ 17.6 | △ 5.8 | △ 5.0 | ▲ 16.6 | △ 5.5 | ▲ 11.1 ( ▲ 16.6 ) |



【令和2年12月の調査結果のポイント】

**≪全産業DIは横ばい。回復を期待するも、先行きに対する明るい材料は見当たらない≫**

12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲46．7（前月水準▲46．6)となり、マイナス幅が0．1ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲11．1(同▲21．0)、サービス業▲33．3(同▲38．8)、製造業▲66．6(同▲69．5)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲59．3(同▲50．0)である。

新型コロナウイルス感染再拡大により、業況は足踏み。年末年始の畳張替え、食料品、お歳暮が好調とのコメントが寄せられた一方、外出・会食の自粛、時短営業の要請により飲食店では宴会予約がキャンセル、広告代理業では各種イベント中止による広告需要の減少についてコメントがあった。ウィズコロナ時代の変化に対応するため、新たなビジネス展開の創造、仕事の見える化等、事業の再構築への対応が求められている。
先行きDIは▲32．6（今月比14．1）と回復への期待感はあるが、明るい材料は見当たらない。

【建設業】からは、「正月を新しい畳で迎えたいというお客様がいらっしゃる事に感謝」（畳）、「コロナ禍の影響か、流通が悪く入荷日数が以前よりも長い。よって、受注後の着手、着工に時間がかかるようになってきた」（電気工事）、「国の財源が不足してくると建設予算の補助金、負担金等に影響を及ぼすと懸念」（土木工事）、「鉄筋など、材料の値上げ連絡があった。売上単価は簡単に変えられないが、材料は簡単に値上げする」（とび）などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「コロナ第3波による外出・会食の自粛、飲食店の時短営業要請等により、酒類の売上は再び減少。感染者の増減によって売上は減少し先行きは不透明。生産性の向上や固定費削減等、減収の中も増益できるような経営体制の変換が必要」（酒類）、「作業の中断・納期遅延は致命傷のため、仕事の見える化を進め業務を複数こなせるようにしている。この際に5S活動を推進して機械の売却、不要物処分をして利益の基盤を築いている。先行き不透明であるが中途採用をして若手の育成も同時進行。戦力増加で業務が分散、残業が減少も期待している」（金属製品）、「働き方改革による休日の増加、有給5日消化の影響でやむなく休日出勤が常態化、全社的にコストアップ一番の要因に。仕事に対する評価基準と時間当たりの賃金の矛盾を是正しないと、経営が成り立たない恐れも」（自動車付属品）などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「第3波による外出自粛で売上、利益共に増加予想。以前とは違う価値観を持つ消費行動に対し想像力が試される」（各種食料品小売）、「昨年より家計における食品消費割合が高い。イエナカ志向が高まり、食品はプチ贅沢品も好調。ファッション関連は苦戦」（大型小売店）、「年々、年末の駆け込み需要が減少」（建築材料卸売）、「例年の12月と比較し、宴会だけで入館者数800～1，000人、売上額400～500万円の減少。今年の3～12月は宴会0件」（公衆浴場）、「クリスマスケーキ予約は前年比増も、大口注文が入らず売上減」（洋菓子店）、「帰省土産等の焼菓子は落ちたが、クリスマスケーキは例年通り」（洋菓子店）、「創業以来、国内外の時代の変動・律動を予測した買い付けを心がけており、この業況は大きな転換チャンス。普段は相手にしてくれない大手メーカーとの商談、テナントの賃料交渉や資金調達の機会である。衣料品は景気が悪くなれば削られる分野と言われるが、店頭でお客様と語り合い、ココでしか手に入らない物・事・体験・想像を意識して経営する事で、成長できた1年であった」（衣料品）、「お歳暮の注文が減少せず、過去最高の売上。一方、飲食店向け卸売は低調で、年明け以降さらに悪化しそう。「中食」は今後も増えると予想し、スーパーへの卸売は堅調だろう。海外レストラン、小売店は販売量が落ちてないところがあり、引き続き海外輸出も力を入れたい」（農畜産物・水産物卸売）などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「年末にかけて各種イベントの中止が続き、短期的な広告需要は下がったまま」（広告代理）、「固定資産税等は普通にかかるため、賃料減額に限界あり」（不動産賃貸）、「忘年会予約キャンセルで売上大幅減少」（日本料理）、「コロナの影響による入試への不安から例年の倍以上が推薦合格を決め、冬期講習や入試直前期の売上に大きく影響」（学習塾）、「コロナ時代を新しいスタンダードととらえ、ビジネス展開をしないと生き残っていけない。営業先の選定、営業手法、価値提供など、今考えられる最先端を1年後は当たり前に実行できるようにする」（広告業）、「政府のデジタル革命のおかげで景気向上。また、今年度は突発的事業に着手し売上増加見込み」（ソフトウェア）などのコメントが寄せられた。

| | 全産業 | 建設 | 製造 | 卸・小売 | サービス |
|---|---|---|---|---|---|
| 7月 | ▲ 45.0 | ▲ 31.5 | ▲ 72.7 | ▲ 40.0 | ▲ 28.5 |
| 8月 | ▲ 53.8 | ▲ 42.1 | ▲ 75.0 | ▲ 55.5 | ▲ 29.4 |
| 9月 | ▲ 43.5 | ▲ 25.0 | ▲ 66.6 | ▲ 53.5 | ▲ 11.7 |
| 10月 | ▲ 34.0 | ▲ 12.5 | ▲ 62.9 | ▲ 32.2 | ▲ 15.0 |
| 11月 | ▲ 46.6 | ▲ 21.0 | ▲ 69.5 | ▲ 50.0 | ▲ 38.8 |
| 12月 | ▲ 46.7 | ▲ 11.1 | ▲ 66.6 | ▲ 59.3 | ▲ 33.3 |
| 見通し | ▲ 32.6 | ▲ 5.5 | ▲ 29.1 | ▲ 56.2 | ▲ 22.2 |

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

| | 売上高(受注・出荷) | | 採算 | | 仕入単価 | | 従業員 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 前年比 | 先行き | 前年比 | 先行き | 前年比 | 先行き | 前年比 | 先行き |
| 全　業　種 | ▲ 42.3 | ▲ 30.4 | ▲ 42.3 | ▲ 32.6 | ▲ 14.1 | ▲ 9.7 | △ 9.7 | △ 4.3 |
| 建　　設 | ▲ 27.7 | ▲ 16.6 | ▲ 22.2 | ▲ 16.6 | ▲ 22.2 | ▲ 11.1 | △ 27.7 | △ 27.7 |
| 製　　造 | ▲ 66.6 | ▲ 20.8 | ▲ 54.1 | ▲ 29.1 | ▲ 20.8 | ▲ 8.3 | ▲ 29.1 | ▲ 37.5 |
| 卸・小売 | ▲ 46.8 | ▲ 59.3 | ▲ 56.2 | ▲ 59.3 | ▲ 12.5 | ▲ 18.7 | △ 25.0 | △ 18.7 |
| サービス | ▲ 16.6 | ▲ 5.5 | ▲ 22.2 | ▲ 5.5 | ±0.0 | △ 5.5 | △ 16.6 | △ 11.1 |

| | 業況 | | 資金繰り | |
|---|---|---|---|---|
| | 前年比 | 先行き | 前年比 | 先行き |
| 全　業　種 | ▲ 46.7 | ▲ 32.6 | ▲ 16.3 | ▲ 23.9 |
| 建　　設 | ▲ 11.1 | ▲ 5.5 | ±0.0 | ▲ 16.6 |
| 製　　造 | ▲ 66.6 | ▲ 29.1 | ▲ 33.3 | ▲ 33.3 |
| 卸・小売 | ▲ 59.3 | ▲ 56.2 | ▲ 25.0 | ▲ 28.1 |
| サービス | ▲ 33.3 | ▲ 22.2 | △ 5.5 | ▲ 11.1 |

# 令和２年１２月ＣＣＩ－ＬＯＢＯとの比較

【業況ＤＩ】

全産業合計では、「柏の景気」が▲46．7に対し、「CCI-LOBO」が▲46．1で柏の方がマイナス幅が0．6ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、10ポイント以上悪い。

【売上ＤＩ】

全産業合計では、「柏の景気」が▲42．3に対し、「CCI-LOBO」が▲46．0で柏の方がマイナス幅が3．7ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業、製造業、卸小売業であり、製造業は10ポイント以上悪い。

【採算ＤＩ】

全産業合計では、「柏の景気」が▲42．3に対し、「CCI-LOBO」が▲43．1で柏の方がマイナス幅が0．8ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業、卸小売業であり、卸小売業は10ポイント以上悪い。

【仕入単価ＤＩ】

全産業合計では、「柏の景気」が▲14．1に対し、「CCI-LOBO」が▲19．1で柏の方がマイナス幅が5．0ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業である。

【従業員ＤＩ】

全産業合計では、「柏の景気」が△9．7に対し、「CCI-LOBO」が△7．5で柏の方がプラス幅が2．2ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は建設業、卸小売業、サービス業であり、卸小売業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業であり、10ポイント以上悪い。

【資金繰りＤＩ】

全産業合計では、「柏の景気」が▲16．3に対し、「CCI-LOBO」が▲21．6で柏の方がマイナス幅が5．3ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、製造業は10ポイント以上悪い。

【令和2年12月業種別業界内トピックス】

| 業種別 | 概　　況 | トピック | 業種 |
|---|---|---|---|
| 建設業 | コロナの早期終息を願います。 | コロナ終息 | 塗装工事業 |
| | お正月を新しい畳で迎えたいというお客様がいらっしゃることに感謝。来年もよい年でありますように。 | 年末の畳張替え需要 | 畳工事請負・畳製造販売業 |
| | コロナ禍の影響か流通が悪くなっているようで、入荷日数が長いため、受注後の着工に以前より時間がかかる。 | 流通停滞 | 電気工事業 |
| | コロナ過の中、国の財源が不足してくると建設予算の補助金、負担金等に影響を及ぼす。 | 国の財源不足の影響 | 土木工事業 |
| | 鉄筋など、材料の値上げ連絡があった。売上単価は簡単に変えられないが、材料は簡単に値上げする。 | 材料値上げ | とび |
| 製造業 | 新型コロナの影響を受けて、低迷してる化粧品容器の受注に回復傾向が見られず苦戦が続く。このままだと運転資金もショートしてしまうので対策に頭を悩ませいている。 | 化粧品受注回復せず | プラスチック加工 |
| | 依然としてコロナ禍の強い影響を受けており、受注が回復していない。 | 受注回復せず | 電子応用装置製造業 |
| | 新型コロナウイルスの第3波の影響による、外出や会食の自粛、飲食店の時短営業要請等により、酒類の売上は再び減少傾向にある。第4波や第5波に備え、第生産性の向上や固定費の削減等、減収の中でも増益ができるような経営体制を変えていく必要がある。 | 新型コロナウイルス第3波<br>先行き不透明<br>経営体制の変換 | 酒類製造業 |
| | いつ新型コロナウイルスに感染してもおかしくない状況が続いているため、業務を複数こなせるように仕事の見える化を進めている。製造業なので作業の中断、納期遅延は致命傷になる。この際に5S活動を推進して機械の売却、不要物処分をして利益の基盤を築いている。中途採用をして若手の育成も同時進行。戦力が増え業務が分散し、残業が減ることも期待している。 | 業務の見える化<br>5S活動<br>人材育成 | 金属製品 |
| | 主力製品は前年同期と比較するとまだまだ悪い状況にて、引き続き雇用調整を実施。社員には引き続き不要不急の対面禁止と出社時の朝の検温及び消毒・マスク着用を実施。 | 雇用調整 | その他の鉄鋼業 |
| | 来年度の売上減少を懸念。 | 先行き売上減少 | 機械・同部品製造業 |
| | 仕事に対する評価基準（生産性や出来高）と時間当たりの賃金の矛盾を是正しないと、今後益々コストがアップして経営が成り立たなくなってしまう。 | 働き方改革 | 自動車付属品製造業 |
| 卸小売業 | コロナの第3波によりまた外出自粛が起こり、弊社のような食品小売業にとっては売上も利益も増加するであろう。以前とは違う価値観を持つ消費行動に対し想像力が試される。 | 新型コロナウイルス第3波<br>売上・利益増加見込み | 各種食料品小売業 |
| | 家計における食品消費割合が昨年より高い。ファッション関連は昨年の70%にとどまる。コロナ感染拡大を受けて、イエナカ志向が高まり、食品はプチ贅沢品も好調。 | 食料品好調<br>ファッション関連苦戦<br>イエナカ志向 | 大型小売店 |
| | 年々年末の駆け込み需要が減ってきている。残業や休日出勤は減少している。 | 年末駆け込み需要の減少 | 建築材料卸売業 |
| | ほぼ自粛の状態で年末年始を迎える。新年は飲食も物販も通常に近い形に戻って欲しい。 | 営業自粛 | 各種商品小売業 |
| | 新型コロナの影響により、通常の12月と比較して、忘年会などの宴会だけで、入館者数800～1，000人、売上額400～500万円減少した。ちなみに、3月～12月の間宴会件数は 0件だった。 | 入館者数・売上大幅減少 | 公衆浴場業 |
| | クリスマスケーキの予約は増え前年比増だったが大口注文が入らなかった分売上減少となった。 | クリスマスケーキ前年比増 | 洋菓子店 |
| | 12月は帰省土産等の焼菓子は落ちたが、クリスマスケーキはコロナの影響はなかった。 | クリスマスケーキ例年通り | 洋菓子店 |
| | 2010年の創業以来、国内外の時代の変動・律動を予測しての買い付けを心がけており、この業況を大きな転換チャンスと捉えている。普段は相手にしてくれない大手メーカーとの商談、テナントの賃料交渉や資金調達の機会である。柏市は「地方過ぎず・都会過ぎない」立地であり、意識の高い若者が多くいる。若者の多くは柏に住んでいなくとも、柏に誇りや期待を持って買い物にやって来てくれる。若者が街を活性化し、多くのカルチャーを生み出し、知らず知らずのうちに次に繋げてくれていると考えている。給付金も家賃補助も受けずに済んだが、昨年と比べ大きく成長できた一年だった。景気が悪くなればファッションは一番先に削られる分野だと言う人がいるが、ファッションは前を向く為の手段（勇気）だと真逆に捉えている。ファッションが人にもたらすパワーは一見目には見えないが、先進諸国の多くの国では高水準の芸術教育分野であり、なくてはならないもの。ただのお洒落ではなく、「着る」から「纏う」事への意識の差異を店頭でお客様と語り合っているからこそ、伸びているのだと思う。地域一番店ではなく、世界基準としてのセレクトショップを目指しており、目標は10年前から変わらず、ココでしか手に入らない物・事・体験・想像といった要素を意識して運営している。今はとても難しい時であるが、これもチャンスと捉えファッションの持つパワーを信じ、より前を向いて多くのお客様の期待を超えるられるよう精進していく。 | 転換チャンス<br>ファッションのもつ力 | 衣料品 |
| | 12月はお歳暮の注文が思いのほか減少せず、売上としては過去最高になった。一方で飲食店向けの卸売は低調で、年明け以降コロナの感染者数によっては更に悪化するのでないかと考えている。スーパー等量販店向けの卸売は年間を通じて堅調であったが、低価格、低利益の商品を中心に販売した事もあり、利益はあまり出ておらず、今後販管費や原料費の見直しが必要である。10月より始めた一般消費者向けのオンライン販売も動き出したが、投資回収には1年～1年半かかる見込み。いわゆる「中食」は今後も増える予想から、スーパー等への卸売は堅調だろう。海外レストラン、小売店は販売量が落ちていないところもあるので、引き続き海外輸出にも力を入れたい。 | お歳暮過去最高売上<br>飲食店卸売低調<br>量販店向け卸売好調<br>海外進出 | 農畜産物・水産物卸売業 |
| | 新型コロナの影響で年末にかけての各種イベントの中止が続き、依然として短期的な広告需要は下がっている。 | 広告需要減少 | 広告代理業 |
| | テナントの賃料減額の要請には応じているが、固定資産税等は普通にかかるため限界がある。 | 賃料減額に限界あり | 不動産賃貸業 |

【令和2年12月業種別業界内トピックス】

| | | | |
|---|---|---|---|
| サービス業 | 忘年会予約のキャンセルにより売上大幅減少。 | 忘年会予約キャンセル | 日本料理 |
| | 製造業は、悪化の見通し。これから景気が良くなる要因は見つからず。 | 製造業は悪化の見通し | 税理士 |
| | 新型コロナの影響で、年明けの入試がきちんとした形で行われるのかという不安に加えて、今年度から大学入試制度が変わることで、例年の倍以上の高校3年生が早くに推薦で合格を決めてしまった。冬期講習や年明け入試直前期（1、2月）の売上に大きく影響が出そう。 | 入試不安による推薦合格増加<br>冬期講習等売上減少見込み | 学習塾 |
| | コロナ時代を新しいスタンダードととらえ、ビジネス展開をしないと生き残っていけない。営業先の選定、営業手法、価値提供など、今考えられる最先端は、1年後には当たり前で実行できるようにしていく。 | 新たなビジネス展開 | 広告業 |
| | 政府のデジタル革命のおかげで景気向上ぎみとなっている、今年度は、突発的事業に着手しており売り上げ高上見込み | デジタル革命 | ソフトウェア業 |
| | 住宅賃貸業は繁忙期入り、3月いっぱいで、空室を埋めたい。 | 繁忙期入り | 不動産賃貸・管理業 |
| | 業界的には、今月も厳しい状況が続いている。本来12月は売上、利益ともに上昇の傾向がある。今年に限っては昨年対比では上昇に転じたが、あくまで一時的なもの。コロナ禍の状況は変わらず厳しい状況である。春先に比べ少し戻りつつあったが、最近になりまた感染者が増えているため営業活動などに影響がある。 | コロナの営業への影響 | 広告代理業 |
| | 年末にかけて反響数、来客数共に減少。資金繰りのために売却相談がきている。個人の需要は根強いものがある。コロナの影響が来年どうなるのか気掛かり。 | 反響・来店客数減少 | 不動産管理業 |

# 令和２年１２月の柏の景気天気図

## 柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

| 景気天気図 | 特に好調 | 好調 | まあまあ | 不振 | 極めて不振 |
|---|---|---|---|---|---|
| | DI≧50 | 50＞DI≧25 | 25＞DI≧0 | 0＞DI≧▲25 | ▲25＞DI |

| 業況DI | 全産業 | 建設 | 製造 | 卸小売 | サービス |
|---|---|---|---|---|---|
| 柏の景気 | ▲ 46.7 | ▲ 11.1 | ▲ 66.6 | ▲ 59.3 | ▲ 33.3 |
| CCI―LOBO | ▲ 46.1 | ▲ 26.9 | ▲ 53.4 | ▲ 45.5 | ▲ 53.0 |

| 売上DI | 全産業 | 建設 | 製造 | 卸小売 | サービス |
|---|---|---|---|---|---|
| 柏の景気 | ▲ 42.3 | ▲ 27.7 | ▲ 66.6 | ▲ 46.8 | ▲ 16.6 |
| CCI―LOBO | ▲ 46.0 | ▲ 22.7 | ▲ 55.1 | ▲ 41.7 | ▲ 57.1 |

| 採算DI | 全産業 | 建設 | 製造 | 卸小売 | サービス |
|---|---|---|---|---|---|
| 柏の景気 | ▲ 42.3 | ▲ 22.2 | ▲ 54.1 | ▲ 56.2 | ▲ 22.2 |
| CCI―LOBO | ▲ 43.1 | ▲ 24.9 | ▲ 47.2 | ▲ 40.6 | ▲ 55.8 |

| 仕入単価DI | 全産業 | 建設 | 製造 | 卸小売 | サービス |
|---|---|---|---|---|---|
| 柏の景気 | ▲ 14.1 | ▲ 22.2 | ▲ 20.8 | ▲ 12.5 | ±0.0 |
| CCI―LOBO | ▲ 19.1 | ▲ 24.4 | ▲ 18.6 | ▲ 17.9 | ▲ 17.4 |

| 従業員DI | 全産業 | 建設 | 製造 | 卸小売 | サービス |
|---|---|---|---|---|---|
| 柏の景気 | 9.7 | 27.7 | ▲ 29.1 | 25.0 | 16.6 |
| CCI―LOBO | 7.5 | 24.9 | ▲ 4.6 | 9.6 | 7.5 |

| 資金繰りDI | 全産業 | 建設 | 製造 | 卸小売 | サービス |
|---|---|---|---|---|---|
| 柏の景気 | ▲ 16.3 | ±0.0 | ▲ 33.3 | ▲ 25.0 | 5.5 |
| CCI―LOBO | ▲ 21.6 | ▲ 5.8 | ▲ 21.7 | ▲ 23.5 | ▲ 33.3 |

# ＣＣＩ－ＬＯＢＯ

## 商工会議所早期景気観測（１２月速報）

調査期間：2020年12月11日～17日

調査対象：全国の337商工会議所が2,758企業にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

**業況ＤＩは、感染再拡大により足踏み。先行きも不透明感増す中、慎重な見方**

１２月の全産業合計の業況ＤＩは、▲４６．１と、前月から▲０．３ポイントの悪化。米国・中国向けの生産増が続く自動車関連や、デジタル投資の増加を背景に受注が持ち直している電子部品関連が牽引したほか、巣ごもり消費に下支えされた飲食料品関連が堅調に推移した。一方、新型コロナウイルスの感染再拡大に伴い、宴会需要が減少した外食産業では売上が低迷した。また、ＧｏＴｏトラベルの一時停止を受けて年末年始の予約キャンセルが相次ぐなど、宿泊業を中心に幅広い業種で今後の影響拡大を懸念する声が強まっている。持ち直しつつあった中小企業の景況感は、感染再拡大の影響から足踏みし、業況改善に向けた動きは力強さを欠く。

先行きについては、先行き見通しＤＩが▲４４．１（今月比＋２．０ポイント）と改善を見込む。生産回復が続く自動車や電子部品関連の製造業による下支えや巣ごもり消費の拡大が見込まれるほか、補正予算に基づくＧｏＴｏキャンペーンの延長を受け、一部では個人消費持ち直しへの期待感もうかがえる。一方、新型コロナウイルスの感染再拡大を背景に、消費者のマインド低迷が懸念される中、中小企業においては先行きへの不透明感が増しており、慎重な見方が強まっている。

業種別にみると、今月の業況ＤＩは前月に比べ、卸売業、小売業で悪化、建設業、製造業は横ばい、サービス業は改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「例年１２月から年度末にかけて駆け込みの受注が多くなるが、今年は民間の建築工事の受注がなくなり、道路補修など土木関係の公共工事により売上をカバーしている状況。当社の主力である民間の建築工事の低迷が続けば、今後の売上減少は避けられない」（一般工事業）、「コロナ禍で来年度の設備投資関連の予算を削減する意向の取引先が多く、４月以降の受注を確保できていない。新型コロナウイルス感染収束が見通せない中、大幅に業績改善するような打開策が見つからず、先行きが不安である」（管工事業）

【製造業】「半導体製造装置関連や自動車検査部品など中国向け製品の需要が伸び、売上は改善した。ただし、先行きが不透明であり、当面は固定費の増加を避けるため、新規採用を見送る予定」（計量器測定機器等製造業）、「売上はほぼ前年同月の水準まで回復しているものの、飲食店など取引先によっては受注が減少している。これまで価格転嫁は見送っていたが、採算改善を図るため、今後は主要取引先への販売価格の値上げを行う」（調味料製造業）

【卸売業】「例年１２月は宴会需要による受注が増加するが、忘年会・新年会を自粛する動きにより、売上は悪化。ＧｏＴｏキャンペーンが一時停止となったことから、先行きについても観光地や飲食店向けの売上が悪化する見込み」（食料品卸売業）、「外出自粛などの影響により、冬物の衣料品は前年同月比６割の売上となった。感染再拡大の状況から、春物の引き合いについても前年同月比４割程度と鈍く、今後の業績改善が見通せない」（衣料品卸売業）

【小売業】「年末のボーナス商戦の時期だが、新型コロナウイルス感染再拡大に伴い来店客数が伸び悩み、売上は悪化。在宅時間の増加からカジュアルウェアの売上が伸びているものの、売上減少分をカバーしきれていない」（衣料品小売業）、「例年、年末年始に開催していた大きなイベントや販促キャンペーンなどは新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から見送った。このため、売上にも影響が出る見込み」（百貨店）

【サービス業】「昼の売上は前年同月を上回るほど好調なものの、宴会を控える動きから夜の来店客数が大幅に減少。営業日を限定し、コストを抑えている」（飲食店）、「１１月まではＧｏＴｏトラベルの効果により、高額な宿泊プランを利用する客が増え、売上・採算ともに改善していたが、同事業の一時停止を受け、年末年始の予約のキャンセルが相次いでおり、先行きは見通せない状況」（宿泊業）

**全国・産業別業況ＤＩの推移**

「見通し」は当月水準に比較した向こう３ヶ月の先行き見通しＤＩ

| | 全産業 | 建　設 | 製　造 | 卸　売 | 小　売 | ｻｰﾋﾞｽ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 7月 | ▲ 59.3 | ▲ 34.8 | ▲ 70.6 | ▲ 59.5 | ▲ 53.4 | ▲ 68.4 |
| 8月 | ▲ 59.0 | ▲ 34.9 | ▲ 69.6 | ▲ 56.7 | ▲ 53.2 | ▲ 70.2 |
| 9月 | ▲ 56.5 | ▲ 30.7 | ▲ 68.3 | ▲ 51.2 | ▲ 52.5 | ▲ 67.8 |
| １０月 | ▲ 50.2 | ▲ 25.8 | ▲ 63.9 | ▲ 47.8 | ▲ 45.3 | ▲ 57.2 |
| １１月 | ▲ 45.8 | ▲ 26.8 | ▲ 54.1 | ▲ 39.0 | ▲ 41.5 | ▲ 56.1 |
| １２月 | ▲ 46.1 | ▲ 26.9 | ▲ 53.4 | ▲ 45.3 | ▲ 45.5 | ▲ 53.0 |
| 見通し | ▲ 44.1 | ▲ 32.4 | ▲ 39.1 | ▲ 44.5 | ▲ 51.3 | ▲ 50.7 |

# 柏の景気情報（令和２年１２月の調査結果のポイント）

**★調査結果のまとめ**

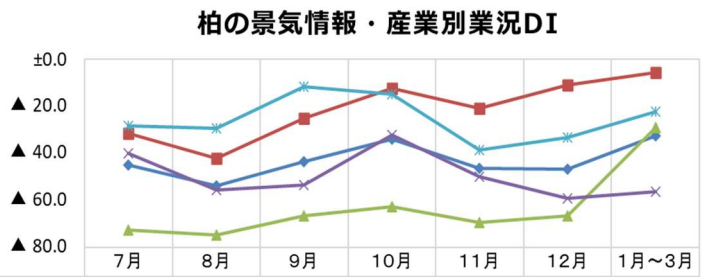
調査期間：令和２年12月25日～令和３年１月７日　調査対象：柏市内130事業所及び組合にヒアリング、回答数92

## 全業種のＤＩ値は横ばい。回復を期待するも、先行きに対する明るい材料は見当たらない

１２月の全産業合計のＤＩ値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲４６．７（前月水準▲４６．６)となり、マイナス幅が０．１ポイント拡大した。

新型コロナウイルス感染再拡大により、業況は足踏み。年末年始の畳張替え、食料品、お歳暮が好調とのコメントが寄せられた一方、外出・会食の自粛、時短営業の要請により飲食店では宴会予約がキャンセル、広告代理業では各種イベント中止による広告需要の減少についてコメントがあった。ウィズコロナ時代の変化に対応するため、新たなビジネス展開の創造、仕事の見える化等、事業の再構築への対応が求められている。

先行きＤＩは▲３２．６（今月比１４．１）と回復への期待感はあるが、明るい材料は見当たらない。




| | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月～3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全産業 | ▲ 45.0 | ▲ 53.8 | ▲ 43.5 | ▲ 34.0 | ▲ 46.6 | ▲ 46.7 | ▲ 32.6 |
| 建設 | ▲ 31.5 | ▲ 42.1 | ▲ 25.0 | ▲ 12.5 | ▲ 21.0 | ▲ 11.1 | ▲ 5.5 |
| 製造 | ▲ 72.7 | ▲ 75.0 | ▲ 66.6 | ▲ 62.9 | ▲ 69.5 | ▲ 66.6 | ▲ 29.1 |
| 卸・小売 | ▲ 40.0 | ▲ 55.5 | ▲ 53.5 | ▲ 32.2 | ▲ 50.0 | ▲ 59.3 | ▲ 56.2 |
| サービス | ▲ 28.5 | ▲ 29.4 | ▲ 11.7 | ▲ 15.0 | ▲ 38.8 | ▲ 33.3 | ▲ 22.2 |

**★業種別の動向**

前月と比べたＤＩ値の動き　↗ 改善　➡ 横ばい　↘ 悪化

↗ **建設業**

「正月を新しい畳で迎えたいというお客様に感謝」（畳）、「コロナ禍の影響か流通が悪くなっているようで、入荷日数が長いため、受注後の着工に以前より時間がかかる」（電気工事）、「国の財源が不足してくると建設予算の補助金、負担金等に影響を及ぼす」（土木工事）、「鉄筋など、材料の値上げ連絡があった。売上単価は簡単に変えられないが、材料は簡単に値上げする」（とび）

↗ **製造業**

「外出や会食の自粛、飲食店の時短営業等により、酒類の売上は再び減少。第４波、第５波に備え、生産性向上や固定費削減等で、経営体制を変えていく必要がある」（酒類）、「作業の中断・納期遅延は致命傷のため、仕事の見える化を進め業務を複数こなせるようにしている。この際に５Ｓ活動を推進して機械の売却、不要物処分をして利益の基盤を築いている。中途採用による若手の育成も同時進行。戦力が増えることで業務が分散し、残業の減少も期待している」（金属製品）、「仕事に対する評価基準（生産性や出来高）と時間当たりの賃金の矛盾を是正しないと、ますますコストアップして経営が成り立たなくなる」（自動車付属品）

↘ **卸・小売業**

「第３波による外出自粛で売上、利益共に増加予想。以前とは違う価値観を持つ消費行動に対し想像力が試される」（各種食料品小売）、「昨年より家計における食品消費割合が高い。イエナカ志向が高まり、食品はプチ贅沢品も好調。ファッション関連は苦戦」（大型小売店）、「年々、年末の駆け込み需要が減少」（建築材料卸売）、「例年の１２月と比較し、宴会だけで入館者数８００～１，０００人、売上額４００～５００万円の減少。今年の３～１２月は宴会０件」（公衆浴場）、「クリスマスケーキ予約は前年比増も、大口注文が入らず売上減」（洋菓子店）、「帰省土産等の焼菓子は落ちたが、クリスマスケーキは例年通り」（洋菓子店）、「創業以来、国内外の時代の変動・律動を予測した買い付けを心がけており、この業況は大きな転換チャンス。普段は相手にしてくれない大手メーカーとの商談、テナントの賃料交渉や資金調達の機会である。衣料品は景気が悪くなれば削られる分野と言われるが、店頭でお客様と語り合い、ココでしか手に入らない物・事・体験・想像を意識して経営する事で、成長できた１年であった」（衣料品）、「お歳暮の注文が減少せず、過去最高の売上。一方、飲食店向け卸売は低調で、年明け以降さらに悪化しそう。「中食」は今後も増えると予想し、スーパーへの卸売は堅調だろう。海外レストラン、小売店は販売量が落ちてないところがあり、引き続き海外輸出も力を入れたい」（農畜産物・水産物卸

↗ **サービス業**

「年末にかけて各種イベントの中止が続き、短期的な広告需要は下がったまま」（広告代理）、「製造業の悪化を感じる」（税理士）、「固定資産税等は普通にかかるため、賃料減額に限界あり」（不動産賃貸）、「忘年会予約キャンセルで売上大幅減少」（日本料理）、「コロナの影響による入試への不安から例年の倍以上が推薦合格を決め、冬期講習や入試直前期の売上に大きく影響」（学習塾）、「コロナ時代を新しいスタンダードととらえ、ビジネス展開をしないと生き残っていけない。営業先の選定、営業手法、価値提供など、今考えられる最先端を１年後は当たり前に実行できるようにする」（広告業）、「政府のデジタル革命のおかげで景気向上。また、今年度は突発的事業に着手し売上増加見込み」（ソフトウェア）

**★全国の商工会議所早期景気観測調査（CCI－LOBO）との比較**

全産業合計では、「柏の景気」が▲４６．７に対し、「ＣＣＩ－ＬＯＢＯ」が▲４６．１で柏の方がマイナス幅が０．６ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、１０ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、１０ポイント以上悪い。